

C 協働学習 (C1)

主な学習活動

走り幅跳びの動きの特徴や変化を視覚的に捉え、効率のよい動きを身に付ける。

1 本時のねらい

動きなどの自己の課題を見だし、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫することができる。

2 主に活用したICT機器・コンテンツ等

授業支援

Google Classroom

3 参考にしてほしいポイント

Google Classroomを活用し、走り幅跳びの見本の動画を資料として生徒に共有することで、自分の動きと比較することができる。また、授業支援アプリ「ミライシード」の提出・発表機能「オクリンク」を使い、単元の初め、終わりにおける走り幅跳びの助走・空中動作・着地をそれぞれ撮影・記録し、最後に比較することで、自分の動きの変化を視覚的に捉えることができる。

| 段階場面 | 主な学習活動 | ICT機器活用のポイント |
|----------|---|--|
| 展開 終末 | 走り幅跳びの助走・空中動作・着地を撮影し、今までの動きの変化を視覚的に捉える。 | <ul style="list-style-type: none"> 動きの変化を分かりやすく捉えさせるために、ミライシードのオクリンク内で自分の動きを時系列でつなぎ合わせるとよい。 ミライシードのオクリンク内で単元の初めと終わりの動画をつなぎ合わせて提出させておくと、生徒の動きの変化が分かりやすく評価にも使いやすい。 |



跳び方はどうかなあ。



フォームが良くなった!!

4 活用効果

自分の動きと手本の動きを見比べることにより、ポイントに自ら気づき、動きに生かすことができた。また、振り返りの際に、測定した記録の変化のみを実感するだけでなく、動きの動画を撮影してつなげるにより、記録の変化があまりなかった生徒も、自分の動きの変化を実感することができた。

5 アドバイザーからのコメント

走り幅跳びにおいて、助走・空中動作・着地のそれぞれを、動画で撮影し、その結果である距離との関係と結びつけて調べています。それは原因と結果の関係を自分自身で認識するという学習で、動画の機能がよく働いています。(東京工業大学 赤堀侃司)

身体表現の場面において自身の動作を客観的に捉えることは難しいため、撮影された映像と感覚を合わせることで、身体表現の向上に有効に働くことが期待されます。映像記録を残さなくても良い場合は、時間差で再生できるソフトやサービスを用いることで同様の効果が期待できます。(福島大学 平中宏典)